

心の距離を縮める

「ありがとう」

五霞西小学校五年 猿橋 愛莉



みなさんは最近誰に「ありがとう」と言いましたか。そして、いつ言いましたか。

私が「ありがとう」と言うときは、家族に何か買ってもらったときや、友だちに落としたり物を拾ってもらったとき、また、困っていた時に手を貸してくれたときなどに多く使っています。つまり、何か特別とまではいなくても、日常の中で私に対して何かいい変化が起きた時に言葉に出して返しているということです。

本来「ありがとう」という言葉は、何かをしてもらった時に言う言葉です。しかし、私たちの当たり前となっていることに対しては「ありがとう」という言葉は自然と使わなくなっていることに気が付きました。例えば、毎日食事を作ってくれているお母さんに。いつも仲良くしてくれているクラ

スの友達に。登下校を見守ってくれている地域の方々に。当たり前になってしまつと、その人に対して「ありがとう」という言葉を使わなくなってしまうということに気付くことができませんでした。気付いてから、私は「ありがとう」という言葉を積極的に使うようになっています。「ごちそうさま。今日も美味しいご飯をありがとう。」「楽しかったね。ありがとう。また遊ぼうね。」「おはようございます。いつも見守ってくれてありがとうございます。」「など普段の会話の中に感謝の気持ちをいれるようにしました。すると、会話が弾んだり、話しかけてもらうことが増え、今まで以上に相手との距離が縮まりました。

「サンキュー」「謝辞」「グランドアス」
いろいろな言葉で「ありがとう」を意味しています。また、この私の手の動きは手話で「ありがとう」を意味しています。本当のグローバル化とは、時間や距離だけでなく世界中の人の心の距離が縮まることだと思います。私が「ありがとう」という言葉を積極的に使うようになって感じたように「ありがとう」という言葉は感謝を伝えるだけでなく、相手を認め、受け入れるという合図であると思います。

「六十日→二十四時間」
何のことだと思いませんか。これは、日本の反対に位置するブラジルへの移動時間の比較です。昔は六十日かかっていた移動時間も、技術の発達によってこれだけ短くなりました。また、インターネットを使えばどんなに離れた場所にいっても一瞬でつながることができる時代になりました。このように、グローバル化が進み、老若男女、国籍関係なく人と人の距離が縮まりました。しかし、本当に大切なのは、心の距離だと私は考えています。



堂々と力強く 発表しました



知久町長から賞状が手渡されました



最優秀賞（中学生の部）藤沼新芽さん



県西教育事務所 鈴木主任社会教育主事から1人ひとりへ講評をいただきました

